

【特別招待講演2】 第27席

「王冰注本『素問』の研究」

中国・済南 張燦琿

中国医学の原典である『素問』は、宋代の儒者たちによる校正を経て現在に伝えられたものである。宋儒たちは校正作業を進めるに際して、底本に唐の王冰による注本を選択している。その理由としては、宋代には王冰注本以外に完備した『素問』のテキストが無かったためかもしれない。しかし同時に、宋儒たちの王冰注本の内容に対する肯定的な評価が感じられる。

宋儒が採用した王冰注本の経文と注解は、その後の『素問』研究の方向を決定づけ、中国医学の枠組みを決定するための大きな原動力になったといえる。したがって経書の場合に似て、後世において『素問』とは概ね王冰注本を指すと言っても過言ではない。明清の注解諸家や日本の研究者たちも、王冰注を土台として『素問』経文の研究を進めている。

一方、王冰が『素問』のテキストを編集する際、底本に大幅な改変を加えたことは、その序にも見えるとおりである。この改変により、『素問』様相を一変させ、王冰以前の古態をうかがうことは甚だ困難となった。そのため『素問』を通じて古い中国医学を研究しようとする研究者たちの間には、王冰注に対する否定的な評価がある。また他方では『素問』を当面、王冰の著作であるかのように扱いつつ、漸次、古い時代に遡行すべきであるとの意見も起こっている。しかし、いずれにしても王冰注本無しには、『素問』を論じることはできない。「王冰注本としての『素問』を論じることには大きな意味がある」と考える。

張燦琿先生は『内経』について長い研究と業績をお持ちである。以下のような論点に基づき、本演題についてのお考えをおうかがいする予定である。

- ①王冰注本成立の意義
 - A. 王冰注本の底本
 - B. 王冰注本の構成、及び構成改変の意図
 - C. 王冰注本の経文
 - D. 王冰注の訓詁
 - E. 王冰注の引用書
 - F. 王冰注の鍼灸（特に『中誥図経』について）
 - G. 運氣七篇の問題
 - H. 王冰の思想的背景、医学思想、養生思想
- ②王冰注とその他の古注の比較
 - A. 全元起注
 - B. 『太素』楊上善注
- ③宋改による王冰注本改変の程度
- ④王冰注本の後代への影響

（文責：篠原孝市）